

『若し一法に住すれば、即ち、法縛を被つて生死を免れず。』

お大師さま『一切経開題』

節分に、星祭り、お豆に、鬼のお面と、世代によつては揃えない方も多くなつていゝと思います。

店頭では、バレンタインのチョコレートが並び、その色合いが、圧倒的な存在感を放つています。

いかにも、日本的ない加減さが、危うくも有り、融通無碍な、したたかさも感じます。

ついつい、白黒、優劣、是非を問いたくなるのが人の常ですが、その執着こそが、人に生死をもた

らしている原因の様です。

今、私たちが生きてゐるこの世は、ご先祖様にとつてのあの世です。私たちのあの世は、次の世代が生きていく未来を意味します。

生はそれだけでは成り立ちません、死もそれだけでは存在出来ません。片方を見失えば、もう片方も消え失せていき、答えなどどこにも見つかりません。

重なり合つた縁が、時の流れを移ろいながら、幾多の命を紡いでいきます。摩訶不思議ですね。